

校長室より

二松学舎大学附属高等学校

校長 鶴飼敦之

## 「二松から飛翔へ」～一期一会～

## 『大寒』 ～春を迎えるための準備～



日本列島はこの冬、記録的な寒波に見舞われ、連日厳しい寒さが続いています。暦の上でも一年で最も寒いとされる「大寒」の時季に入り、各地では雪かきに追われるニュースが報道されています。

東京においても、朝の気温が一桁台の日が続き、日中でも十度に届かない日がありました。

しかし、この厳しい寒さこそが、春に咲く桜をより美しくするための大切な準備期間でもあります。自然は、見えないところで力を蓄えながら、次の

季節を迎える支度をしているのでしょう。

登校する生徒たちも、コートにマフラー、手袋と完全防寒の姿が目立ちます。朝の挨拶も、寒さで口が思うように回らず、少しぎこちなくなることもあります。それでも元気に「おはようございます」と声をかけてくれる姿に、学校の日常のありがたさを感じます。

さて、1月も残すところあとわずかとなりました。時の流れは早く、油断していると、何もしないまま時間だけが過ぎ去ってしまいかねません。「1月は住める（去るの意味）、2月は逃げる、3月は去る」と言われるように、これから年度末に向けて、日々はさらに慌ただしくなります。だからこそ、目の前の一日一日を大切に、計画的に過ごしていきたいものです。寒さの中で力を蓄えるこの時季を、さらなる成長への準備期間として、前向きに捉えていきましょう。

そして、受験真ただ中の3年生、頑張れ！！

## 2年生進路講演会 ～受験0学期のスタートラインに立って～

先週末の24日（土）、2年生の保護者の皆様を対象とした進路講演会・保護者会を開催しました。

前半では、代々木ゼミナールの講師をお迎えし、「後悔しない受験プランを考える」と題して、一般選抜試験を見据えた受験計画について、具体的かつ実践的なお話をいただきました。近年の入試動向や受験準備の進め方、そして保護者としての心構えなど、熱心にメモを取られる姿が多く見られました。続いて、進路指導部の神戸主任から、本校における推薦入試および一般選抜の仕組みについて説明がありました。生徒一人ひとりの進路実現に向けて、学校としてどのような支援を行っているのかを、具体的に共有する機会となりました。

冒頭、「丙午」の話題を切り口に、少子化の現状と、これからの学校の在り方について触れさせていただきました。今年は午年で60年に一度の「丙午」に当たりますが、前回の1966年、当時は迷信に基づく報道の影響で出生数が大きく落ち込みました。この年の出生数は約136万人で、その前後の年と比べても極端に少ない数字でした。

では、現在はどうかでしょうか。昨年の出生数は約66万5千人と、昭和の丙午の年の半分以上となっています。迷信に左右される時代ではなくなりましたが、少子化は確実に進行しています。都内の中学3年生の数も今後、減少へ転じると予測されており、高校の中には閉校を余儀なくされる学校も出てくるでしょう。

そのような中で、本校が「選ばれる学校」として存在し続けるためには何が必要か。中学生の学校選びのポイントは、①アクセス、②校風、③学力、④進路実績です。本校の強みである小規模校ならではのきめ細かな指導、面倒見の良さに加え、確かな進学・出口指導を、より一層磨いていくことが重要だと考えています。

近年は年内入試や推薦入試の比重が高まっており、教員による出願書類の指導、志望理由書の添削、面接練習などにも力を入れています。しかし、それだけで十分ではありません。一般入試においても着実に合格者を出し、結果で評価される学校であることが不可欠です。そのため、昨年度からは夏期講習の無料化や「まつぼっくり」の導入など、学習支援体制の充実を図ってきました。今後も、成果を積み重ねることで、選ばれる学校であり続けたいと考えています。

今回の進路講演会は、まさに「受験0学期」のスタートです。ぜひご家庭でも進路について話し合い、来年度に向けた準備を着実に進めていただければと思います。

万人 丙午に出生数は減少した

